

## (4) 南 関 東



南関東地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、このところ一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ減少している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更 )

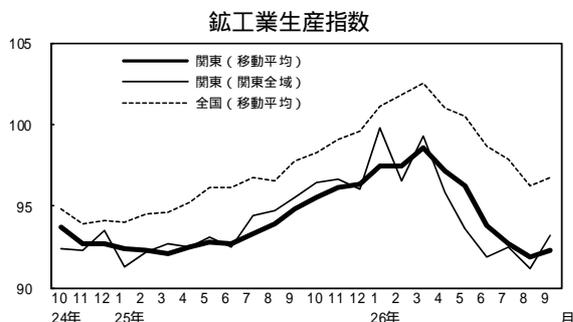
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 26 年 8 月)	今回 (平成 26 年 11 月)
景況判断	緩やかな回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある	緩やかな回復基調が続いているが、このところ一部に弱さがみられる
鉱工業生産	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ減少している

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ減少している。(関東全域)

輸送機械は北米等の海外向けは引き続き堅調だったものの、消費税増税の影響が続いていることや受注残高が減ってきていることもあり、減少。化学(除く医薬品)は4~6月の生産停滞に対する反動もあり、エチレン等で増加した。電気機械は電気冷蔵庫における生産増もみられ、やや増加。情報通信機械は外部記憶装置やデスクトップ型パソコンの生産が不振だったこともあり、減少。生産用機械は半導体製造装置や数値制御ロボット等を中心に減少。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。  
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

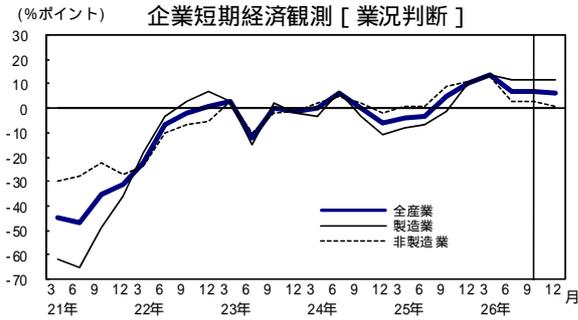
### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4~6 月期	7~9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	18.6	4.6	6.9	1.0	5.8	2.1
化学	15.1	9.5	-	5.2	3.4	-
電気機械	9.3	7.5	0.8	1.4	1.1	3.9
情報通信機械	6.2	6.7	13.6	3.6	5.7	14.0
生産用機械	6.1	0.4	3.9	4.9	8.2	5.8
鉱工業	100.0	4.8	1.6	0.7	1.4	2.2

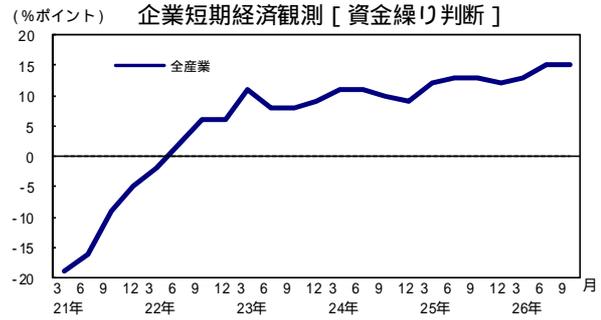
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 7~9月期、9月は速報値。化学は速報値では公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

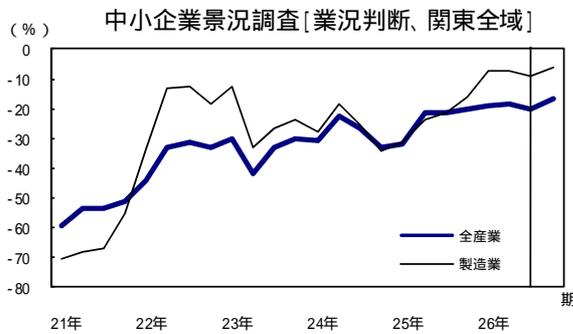
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年12月は予測。  
日本銀行横浜支店管内。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
日本銀行横浜支店管内。

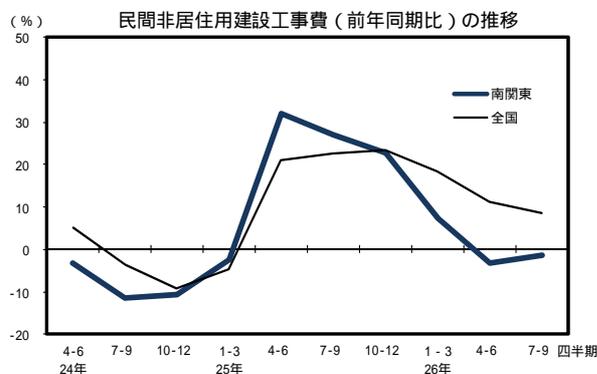


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「新たな資金ニーズが特に見当たらないことと、数か月前からマインド的な部分も変わっていない(金融業)」などの回答もみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	25年度実績	26年度見通
全産業	1.5	3.7(0.9)
製造業	4.9	8.5(1.6)
非製造業	15.0	4.5(0.5)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

日本銀行横浜支店管内。

(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比1.1%減、8月は同1.1%増、9月は同0.8%増となった。

大型小売店販売額

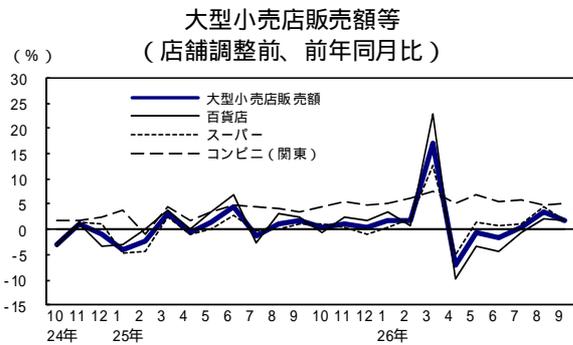
百貨店は、7月は、天候不順で夏物衣料の動きが鈍かったこともあり、「婦人・子供服・洋品」等が振るわず、前年を下回った。8月は、秋物商品の動きが良かったこともあり「身の回り品」等が好調で、前年を上回った。9月は、秋物商品が引き続き好調で「紳士服・洋品」等に動きがみられたことで、前年を上回った。

スーパーは、主力の「飲食料品」で肉類等の相場高の影響がみられたこともあり、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

南関東地域の家計動向関連DIは、39.4となり前月より7.0ポイント低下した。

「一部のプレミアム商品とコンビニカフェの売上増はあるものの、来客数が落ち込んでいる上に客単価の減少で厳しく、一般商材は増床を繰り返す大手スーパーに食われてしまっている(コンビニ)」など「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

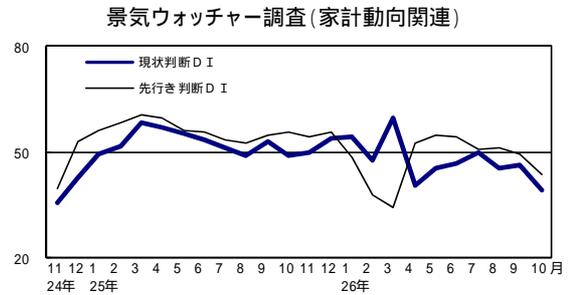
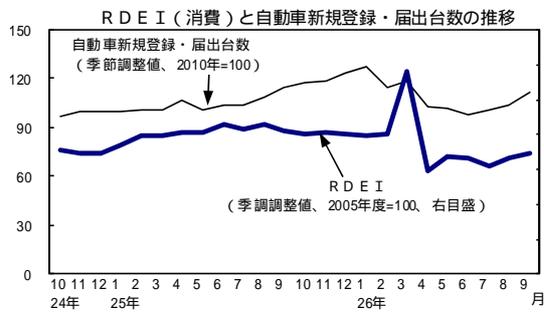


	26年7-9月	26年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.3	1.1	1.1	0.8
大型小売店(*2)	1.8	0.3	3.5	1.9
百貨店(*2)	1.0	0.6	2.2	1.9
スーパー(*2)	2.4	1.0	4.4	1.9
コンビニ(*2)	5.3	5.9	4.9	5.0
乗用車(*3)	3.5	2.3	7.1	2.1
(季節調整値)(*3)	4.5	3.0	2.6	7.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)、コンビニは関東全域

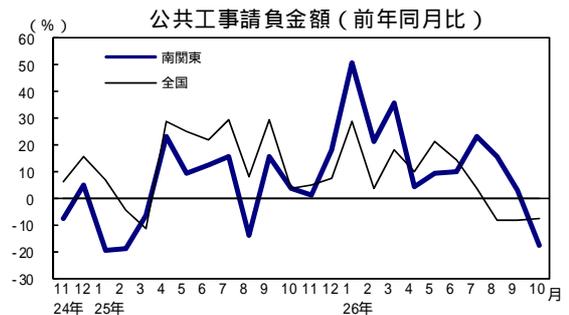
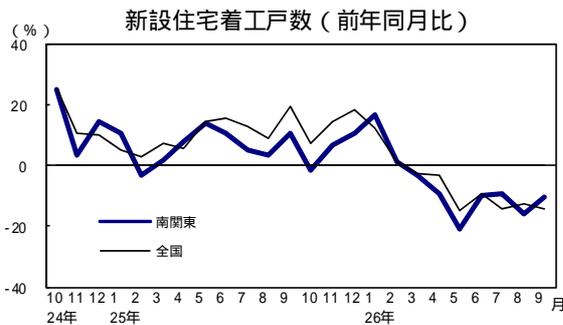
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体では大幅に減少している。

(3) 公共投資は26年度累計でみると前年度を上回っている。

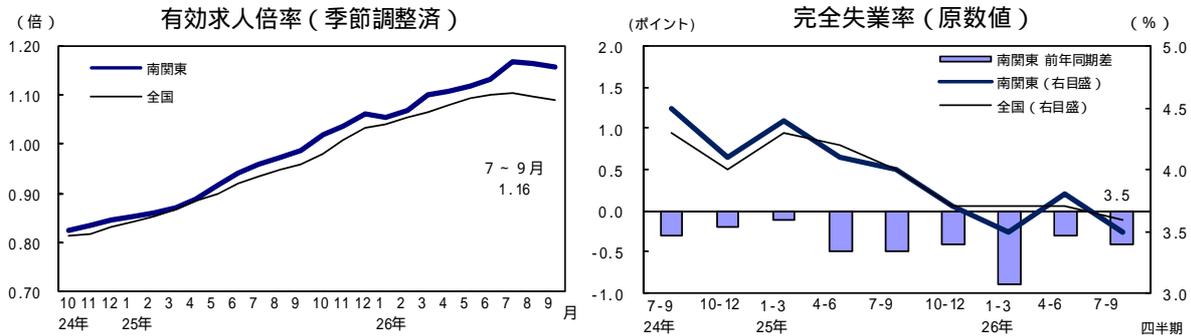


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

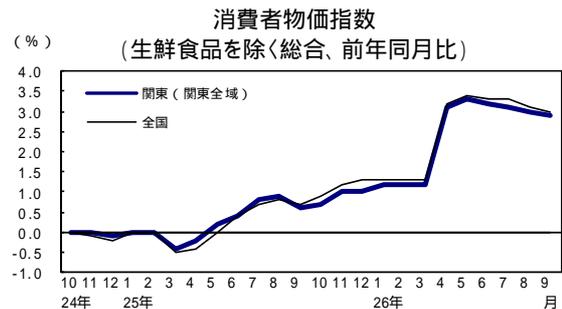
「依頼数、求職数共に増えてきている (人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年10-12月	26年1-3月	4-6月	7-9月	26年10月
倒産件数	858	792	876	838	220
(前年比)	7.6	15.1	5.9	9.8	27.4
負債総額	1,397	3,101	2,081	1,292	429
(前年比)	46.9	51.9	39.0	46.1	25.6



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・アクセサリーなど高額商材の動きが鈍い。化粧品でも富裕層は高額クリームの購買もあるが、それ以外の客は以前より購買単価が下がっている (百貨店)。

<先行き>

- ・夏場以降、消費の減退が続いている。台風の影響もあるが、秋を通り越して急に冬になってしまった感覚で、秋物があまり出ない。また、大きな商品が動かない状況が続いている (衣料品専門店)。

